

現代中国における「国学ブーム」という現象について

法政大学 金世勇

1 目的

この報告の目的は、2000年代以降、中国で展開している「国学ブーム」という現象の発生原因について探求することである。2000年代以降の「国学ブーム」という現象には、子供に儒教経典を読ませる「読経運動」、企業経営者向けの「国学」研修クラスの展開、中国の民族的マジョリティである漢民族の服を作る「漢服ブーム」などがある。「国学」とは「中国の伝統的な文化と思想」を指し、中国の文化や歴史に中国というネーションの独自性を求めることによって清朝末期に誕生した言葉である。1949年以来批判されてきた「国学」が2000年代になってブームを形成した原因を、その展開過程、政府と「国学ブーム」における民間の唱導者、そしてその参加者の言説に焦点を当てて考察した。

2 方法

本研究では、中国の文献検索サイトCNKIの「国学ブーム」に関連する文献を通時的に追跡することによって、「国学ブーム」の歴史的な展開過程とその背景について明らかにした。次に、民間の「国学ブーム」の唱導者の代表的な言説に注目しながら、代表的な言説を分析した。最後に、民間の「国学ブーム」で重要な役割を果たしている読経運動に参加者の感想を通じて、一般の人々が「国学ブーム」に参加する動機を分析した。

3 結果

中国では、東欧革命以降、1980年代からの政治改革が停止し、中国文化を全般的に西洋の文化に変えていく「新啓蒙運動」が批判され、中国政府は「国学」に関する研究を奨励するようになった。中国政府は当時、東アジア諸国の経済成長モデルを参考にし、流行していた儒教資本主義論の影響を受けていたことがわかった。2003年からの民間の「国学ブーム」は政府が主張するマルクス主義イデオロギーや多民族国家の立場と矛盾するところがあるが、政府の伝統文化政策の推進によって生じた政治的機会を利用して発展したことが明らかになった。また、建国以来イデオロギー性を失った「国学」という言葉の意味は、2000年代になると「西学」（西洋の学問）と対立するイデオロギー性が復活し、それが2000年代の「国学ブーム」が民間で広がる理由にもつながったと考えられる。「国学ブーム」の民間の唱導者には、過度な「西洋化」による社会道徳の「崩壊」を批判し、「中国の伝統的な価値の復活」を通じて社会を改善することを説く人が多いことがわかった。しかしながら、読経運動という民間の「国学ブーム」への一般の参加者は子どもの教養を高めることや、子どもの能力を開発するなどといった動機が語られている言説が大多数であることがわかった。

4 結論

以上から、民間の「国学ブーム」の背景には、中国政府の冷戦終結後のイデオロギーのナショナリズムへの転換があり、経済発展による「自文化」への肯定的な再評価が要求されていたと考えられる。また、「国学ブーム」という現象が起こる原因には唱導者の唱導とは異なり、一般の人々に「国学」が利用される部分が多く、経済発展による文化資本への投資が増えるところも注目できる。